

プロジェクト報告 Project Reports

東アフリカ干ばつ被災者支援 #1

『干ばつに苦しむ東ケニア及びソマリア難民への緊急支援物資の配布』

対象地域：ケニア、ソマリア

サポート：ジャンプラットフォーム

期間：2011年10月～12月



アフリカ東部では、2007年頃から雨が降らなくなり深刻な干ばつに見舞われ、1,240万人以上の生命が危険にさらされている。

ソマリアでは、20年に及ぶ内戦と無政府状態、医療、人道支援の不足、そして干ばつという複合的な悲劇に見舞われ、国外脱出者が増えている。国連の2011年7月24日の発表によると、ケニアに到着した難民は1ヶ月平均で1万人にのぼり、ガリッサ県にある定員9万人のダダーブキャンプには45万人以上のソマリア難民が流入、水や食料、栄養補助食品、衛生設備、シェルターなどを必要としている。餓死者は過去数ヶ月で3万人に及んでいる。

さらにケニア南部のカジアド県でも雨が降らず、飼料不足で遊牧民の最も貴重な財産である牛、ヤギ、らくだ、ロバが死亡し、人々は生きるすべを失っており、遊牧民族の生存も危機にさらされている。

ICAは、ICAケニアや現地NGOと連携して情報収集を行い、ジャンプラットフォームの支援を受けて、まだ支援の手が届いていない地域の被災者に食糧と水の支援を行った。今回は、ケニアのガリッサ県、マンデラ県、カジアド県の3地域で、1週間分の水と食料(米、トウモロコシ、豆、小麦、油、砂糖など)を配布した。また、食糧支援を一時的なもので終わらせないために、農業基盤があり、雨季に雨が期待できる地域には種子を配布した。種子は雨季の11月に種を蒔き、約4か月後に収穫が期待できる。ICAは現地政府(県知事や市長等)と住民組織、部族長らと協力し、支援を最も必要としている住民を選定して配布対象者リストを作成し、公平に、平和的に物資が行き渡るように配慮した。



食糧配布を行うICAスタッフ



水タンクの支援を受けた小学校の子供たち



人々が見守る中でトラックで運んだ物資を仕分け



支援物資の配布を待つソマリア難民たち



理事長の佐藤自ら被災者に物資配布を行う



支援物資を抱えて歩いて家路に着く女性たち



マニヤタと呼ばれる藁葺き住居の前で遊ぶ子供たち



支援物資の水をロバで運ぶ子供たち



支援した水タンクの前で子供達と記念撮影



湖の水を頭に載せて運ぶ子供たち